



BEPPU UNIVERSITY

令和3年度

雇用主アンケート調査結果報告書

令和4年8月3日

別府大学

はじめに

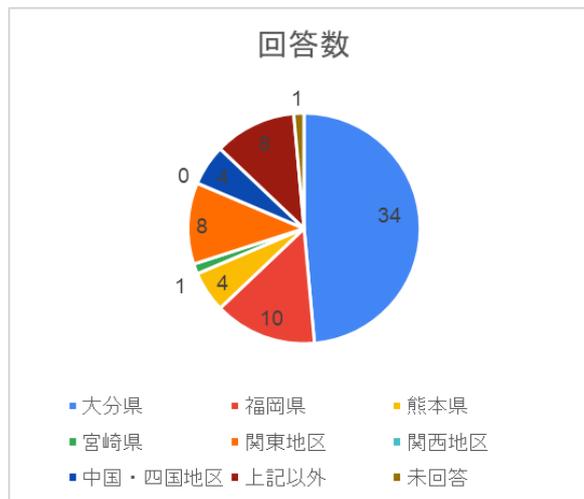
令和3年度は、アセスメント・ポリシーに基づく「地元社会・産業界からの『外部評価』』として、卒業生の就職先での卒業生に対する評価を把握するため、2021年度の卒業生の就職先にアンケートを実施しました。その結果、依頼に対して70件の回答が得られました。今回の調査は、就職した学生の学部・学科を問わずに行っているため、学科ごとのDP達成度を測ることはできませんでしたが、別府大学全体の傾向を知る上では大変参考になる結果が出たと考えています。忙しい中、アンケートにご協力いただいた企業・団体の関係者に感謝申し上げます。今後この結果を教育改善に活用し、高等教育機関である大学の教育の質保証に繋げていく所存です。

雇用主アンケート調査結果

問1. ～問6. は、主に回答いただく企業の状況について質問

問1. 本社所在地

所在地	回答数	割合
大分県	34	49%
福岡県	10	14%
熊本県	4	6%
宮崎県	1	1%
関東地区	8	11%
関西地区	0	0%
中国・四国地区	4	6%
上記以外	8	11%
未回答	1	1%



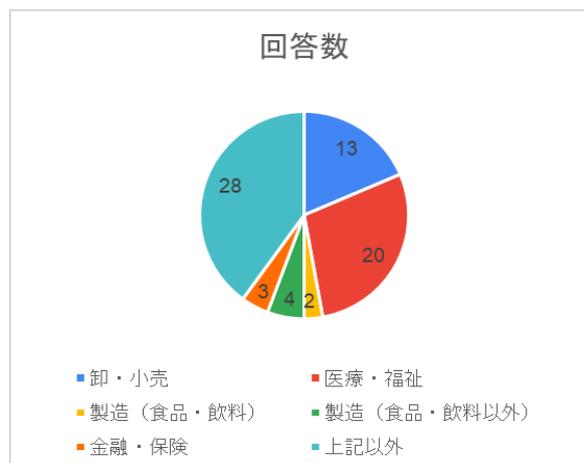
問2. 従業員（職員）規模

従業員（職員）数	回答数	割合
1,001以上（人）	14	20%
301～1,000	14	20%
101～ 300	26	37%
51～ 100	9	13%
21～ 50	5	7%
20以下	2	3%



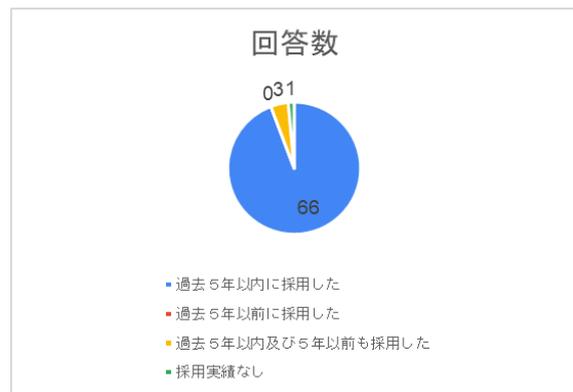
問3. 主たる業種

主たる業種	回答数	割合
卸・小売	13	19%
医療・福祉	20	29%
製造（食品・飲料）	2	3%
製造（食品・飲料以外）	4	6%
金融・保険	3	4%
上記以外	28	40%



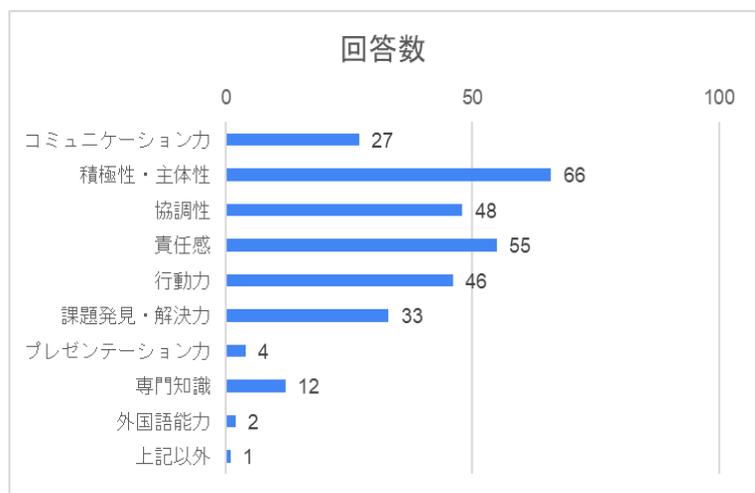
問4. 本学からの採用実績

本学からの採用数	回答数	割合
過去5年以内に採用した	66	94%
過去5年以前に採用した	0	0%
過去5年以内及び5年以前も採用した	3	4%
採用実績なし	1	1%



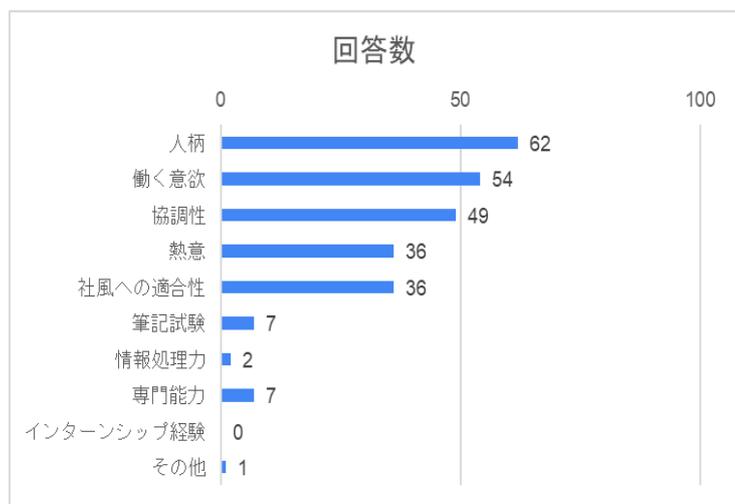
問5. 求める(重視する)能力[複数回答可]

求める能力	回答数	割合
コミュニケーション力	27	39%
積極性・主体性	66	94%
協調性	48	69%
責任感	55	79%
行動力	46	66%
課題発見・解決力	33	47%
プレゼンテーション力	4	6%
専門知識	12	17%
外国語能力	2	3%
上記以外	1	1%



問6. 重視する事柄[複数回答可]

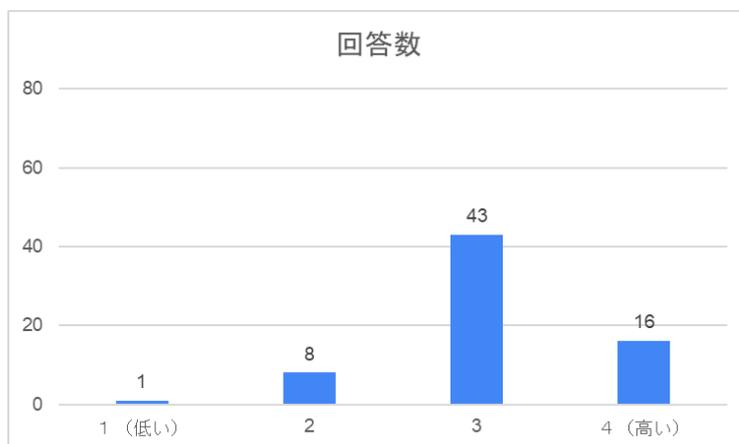
重視する事柄	回答数	割合
人柄	62	89%
働く意欲	54	77%
協調性	49	70%
熱意	36	51%
社風への適合性	36	51%
筆記試験	7	10%
情報処理力	2	3%
専門能力	7	10%
インターンシップ経験	0	0%
その他	1	1%



問7. ～問16. は、本学卒業生の修得している能力について質問
[不足している]から[できている・ある等]を、1から4の数値で回答

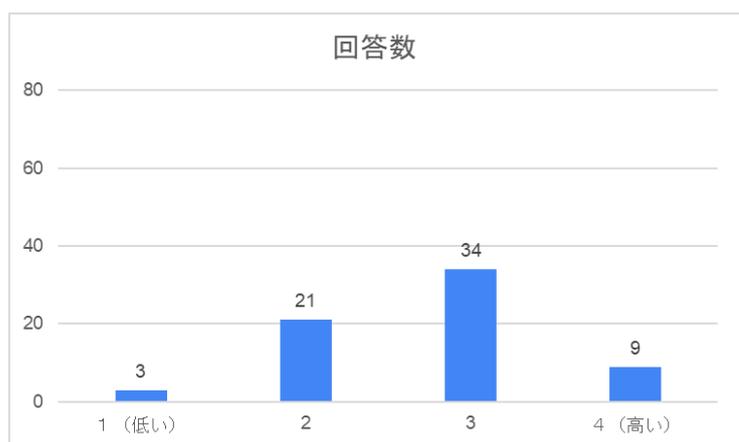
問7. 社会人として必要な常識・幅広い知識教養を身につけているか

数値	回答数	割合
1 (低い)	1	1%
2	8	12%
3	43	63%
4 (高い)	16	24%



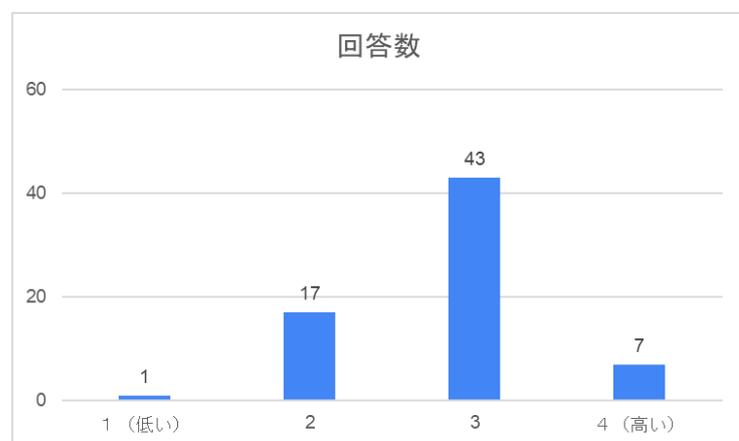
問8. 専門分野で身につけた基本的な知識・技能を活かすことができているか

数値	回答数	割合
1 (低い)	3	4%
2	21	31%
3	34	51%
4 (高い)	9	13%



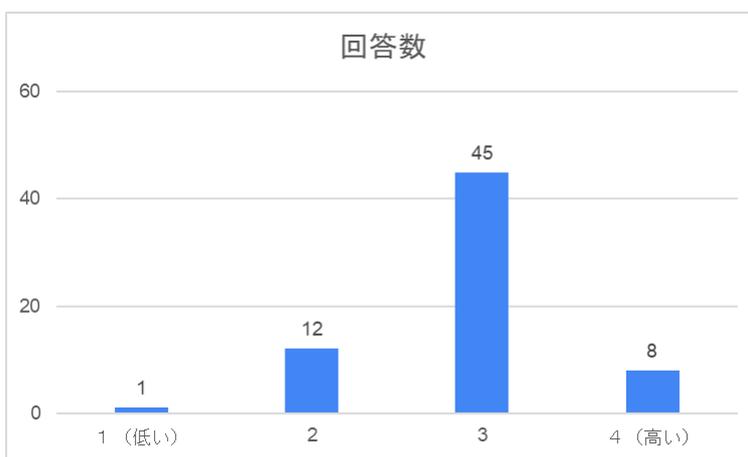
問9. 論理的に考え分析する能力はあるか

数値	回答数	割合
1 (低い)	1	1%
2	17	25%
3	43	63%
4 (高い)	7	10%



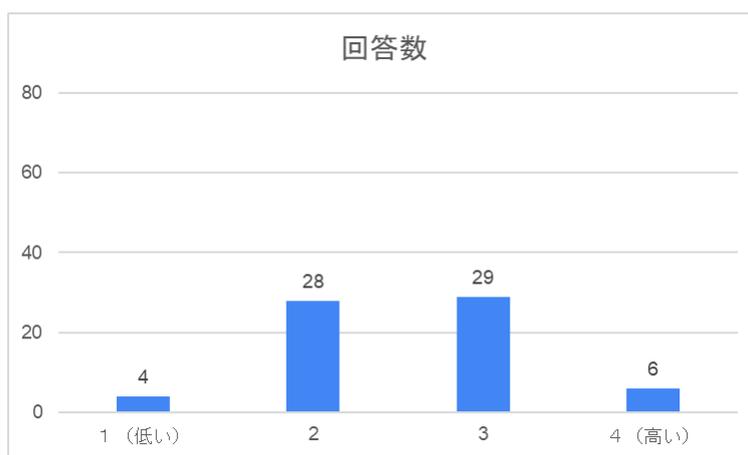
問 10. 主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか

数値	回答数	割合
1 (低い)	1	2%
2	12	18%
3	45	68%
4 (高い)	8	12%



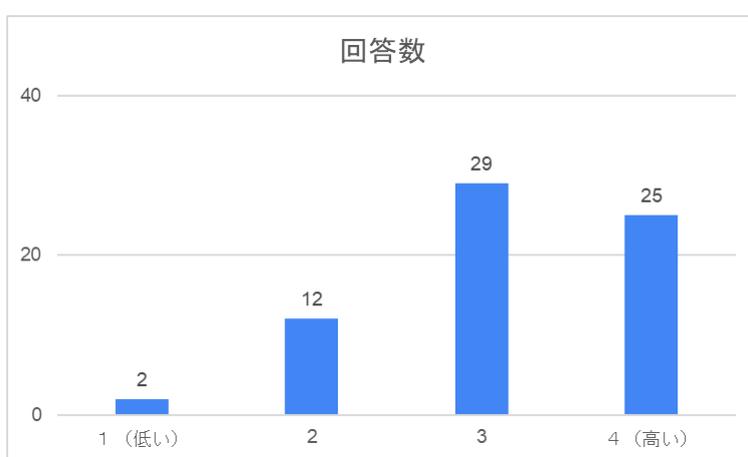
問 11. 組織での活動においてリーダーシップを発揮することができるか

数値	回答数	割合
1 (低い)	4	6%
2	28	42%
3	29	43%
4 (高い)	6	9%



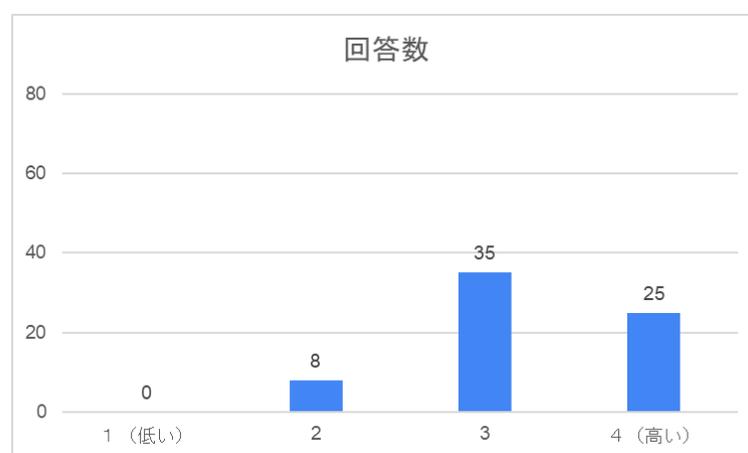
問 12. 組織において、他社や他部門と協調・協力して仕事を進めることができるか

数値	回答数	割合
1 (低い)	2	3%
2	12	18%
3	29	43%
4 (高い)	25	37%



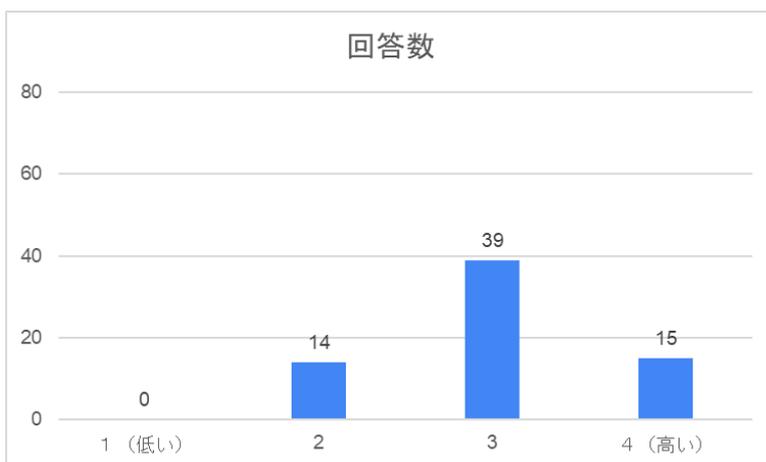
問 13. 場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか

数値	回答数	割合
1 (低い)	0	0%
2	8	12%
3	35	51%
4 (高い)	25	37%



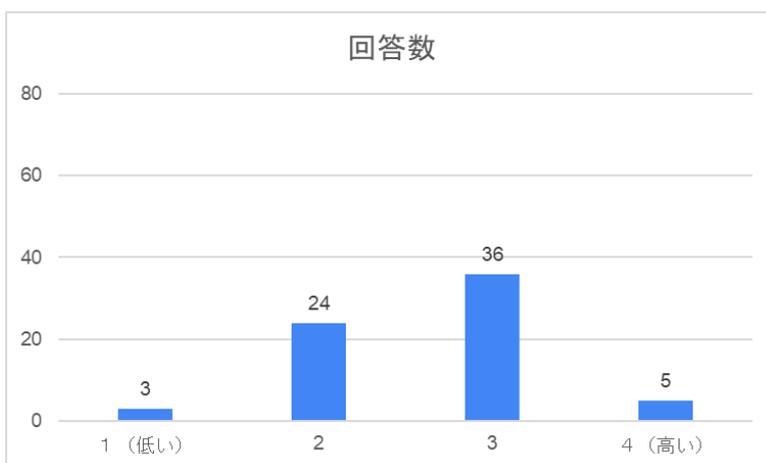
問 14. 自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか

数値	回答数	割合
1 (低い)	0	0%
2	14	21%
3	39	57%
4 (高い)	15	22%



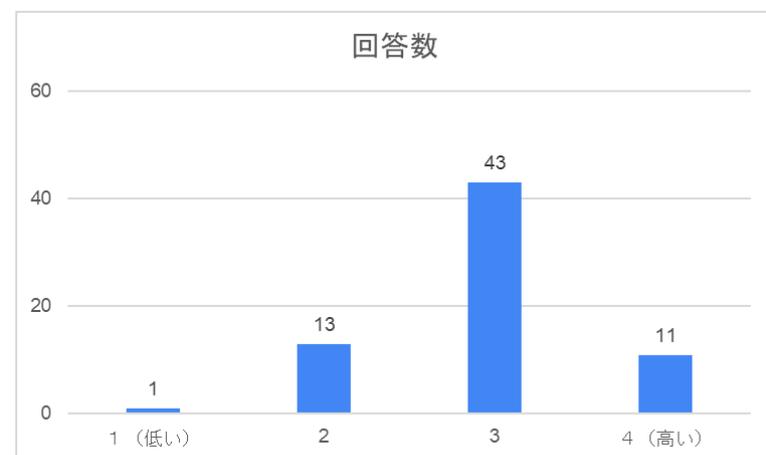
問 15. 社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができるか

数値	回答数	割合
1 (低い)	3	4%
2	24	35%
3	36	53%
4 (高い)	5	7%



問 16. 基本的な情報処理能力 (パソコンスキル等) を身につけているか

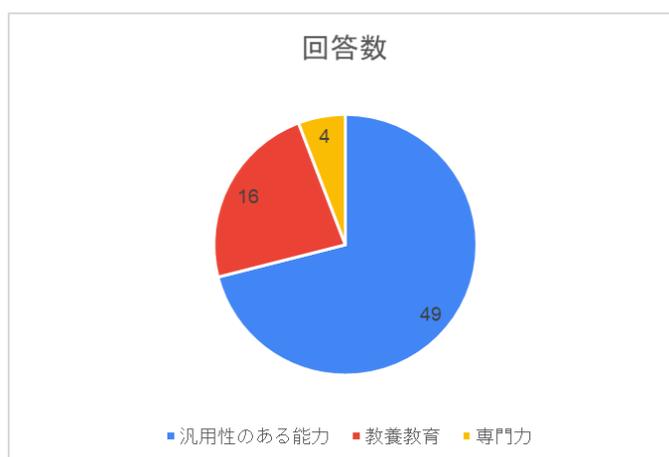
数値	回答数	割合
1 (低い)	1	1%
2	13	19%
3	43	63%
4 (高い)	11	16%



問 17. から問 18. は、回答いただく企業の今後の希望等について質問

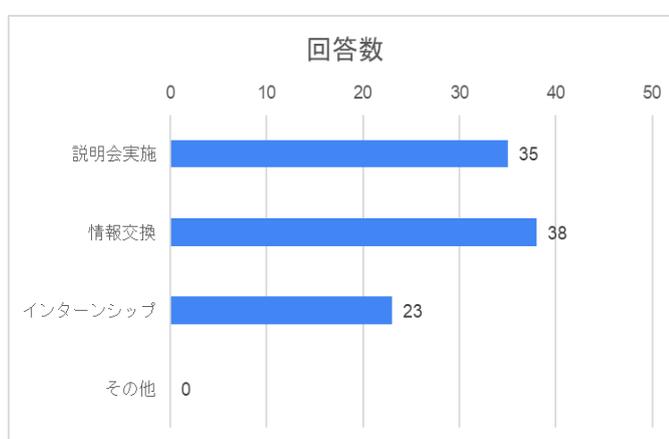
問 17. 企業として本学で身に付けても
らいたい能力は何ですか

能力	回答数	割合
汎用性のある能力	49	71%
教養教育	16	23%
専門力	4	6%



問 18. 今後、以下の事項について貴社
が希望することはどんなことですか
(複数回答可)

希望事項	回答数	割合
説明会実施	35	54%
情報交換	38	58%
インターンシップ	23	35%
その他	0	0%



自己評価

問 7 は教養、問 8 は専門力、問 9、10 は汎用力の中の思考力、問 11、12 は汎用力の中の実行力、問 13、14 は汎用力の中の表現力、問 15、16 は汎用力の中の情報力について調査を行った。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

(1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。

(2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。

(3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。

(4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

問7. 社会人として必要な常識・幅広い知識教養を身につけているか (87%)

※問の () 内は3、4と回答した割合

評価 (1~4)	理由
3	質問に対する4段階評価のうち、3及び4の評価をしたのは全体の87%で、8割を超える雇用主から肯定的な評価をいただいた。ただし、最も高い4の評価をしたのは24%にすぎなかった。一方、2の評価をしたのが12%、1の評価をしたのが1%と合わせると13%あり、全体の1割強の卒業生に社会人としての知識・教養が十分身につけていないとすれば、原因を探り、改善方法を検討する余地がある。身につけてもらいたい能力として教養教育を挙げた企業は23%あり、汎用性のある能力(71%)を大きく下回ったものの、16%というは無視できない数字でもある。今後は大学における教養教育と一般社会が求める一般教養のコンセンサスの一致やを求めていくことや最も低かった専門力(6%)についても、不要であるとは言っていないことも問の在り方を検討していく必要があるかもしれない。なお自由記述の中に「専門的な知識ももちろんであるが「鋭い感性を持った学生さん」を育てることにちご尽力をいただければ・・・」とする意見など、今後の大学卒業という人材に求められる要素が、単純な専門的な知識から、より課題発見力や課題解決能力といった内容へ変化していくものである可能性を感じた。

専門力 (専門に関する基本的な知識、技能)

<社会的意義><職業生活で評価される能力><専門に関する能力>

問8. 専門分野で身につけた基本的な知識・技能を活かすことができているか (64%)

評価 (1~4)	理由
3	質問に対する4段階評価のうち、3及び4の評価をしたのは全体の64%となった。しかしそのうち51%が評価3であり、総合的には高い評価といえないだろう。一方、2の評価をしたのが31%、また1の評価をしたのが4%あった。合わせると3割強あり、専門的な知識・技能を活かすことができているケースが少ないことにも注目すべきだろう。「企業として本学で身につけてもらいたい能力について」(問17) 専門力と答えたのはわずか6%だったことを踏まえると、専門的知識を入社後に習得すると考えている企業は少ないと想定される。しかし本学の多くの学科で資格や免許を取得するための授業や指導を行っていることを考えると低い評価を出した企業・職場と就職している学生のマッチングなど把握する、より詳細なデータ取得の必要はあると考える。

汎用力 (社会で活用できる汎用性のある能力)

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

問9. 論理的に考え分析する能力はあるか (73%)

問10. 主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか (80%)

評価 (1~4)	理由
3	質問に対する 4 段階評価のうち、問 9 では、3 及び 4 の評価をしたのは全体の 73%、問 10 では 80%であった。しかし最も高い 4 の評価をしたのは、それぞれ 7%、12%にとどまっている。一方、2 の評価は問 9 では 25%、問 10 では 18%、1 の評価はそれぞれ 1%、2%と低い評価も存在する。「企業として本学で身に付けてもらいたい能力について」(問 17) 汎用力と答えた企業が 71%と圧倒的に多かったことから判断すれば、2 割強が低い評価だったことは決して無視できない。本学では課題解決型の授業を全学的に取り組む動きが出ているが、その授業を必修に近いものにするなど充実を図ることや入試段階での検討など必要かもしれない。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

問 1 1. 組織での活動においてリーダーシップを発揮することができるか (52%)

問 1 2. 組織において、他者や他部門と協調・協力して仕事を進めることができるか (79%)

評価 (1~4)	理由
3	質問に対する 4 段階評価のうち、問 1 1 では、3 及び 4 の評価をしたのは全体の 52%と低かったが、問 1 2 では 80%であった。2、1 の評価が問 1 1 で 48%、問 1 2 で 21%であった。「性格が優しい方が多い」という以前のアンケートの自由記述があったが、本学の学生のリーダーシップの資質については約 4 割が低い部類に入ったというのは、おとなしい学生が多いといわれることを裏付けるものとみられる。しかし、自由記述で「中心的役割を担っており大変ありがたい」との指摘もあったことは注目すべきことだろう。また協調性については、83%が高い部類の評価を得たことも重視すべきであり、本学の卒業生の強みとして活かせるよう、教育面に反映させる必要がある。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

問 1 3. 場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか (88%)

問 1 4. 自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか (79%)

評価 (1~4)	理由
----------	----

3	質問に対する4段階評価のうち、問13では、3及び4の評価をしたのは全体の88%、問14では79%であった。これは4分の3以上の企業が本学の学生の礼儀やコミュニケーション力に一定の評価をしているということになり、心強い内容だと考えられる。企業が求める能力や事柄として、コミュニケーション力や人柄が上位にあることも注目したい。マナーなどの面で2が18%、コミュニケーション力の面で21%という数字も無視はできない。社会人としての「常識」をしっかりと身に付けてもらうための教育の充実を図るための努力を引き続き行うべきだと考える。
---	---

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

問15. 社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができているか (60%)

問16. 基本的な情報処理能力 (パソコンスキル等) を身につけているか (79%)

評価 (1~4)	理由
3	問15は、外部からの情報を収集する能力であり、問16は、パソコンのスキルそのものの操作能力ということになり、同じ「情報力」の質問であるが、本質的には異なる能力についてである。個人が情報を収集するのにこの2つの質問は連動してくると考えられる社会動向や問題に関心を持って必要な情報を収集することができている (3, 4の評価) のは60%、1, 2の評価は39%であった。社会情勢によりを持つ教育の充実が望まれる。問16のパソコンスキル等の能力については、3, 4の評価が79%に達し、本学のIT教育における一定の成果は出ていると伺える。しかし、パソコンスキルに関しては「社会人としてあたりまえ」という認識が強まるなか、データサイエンスなどより高度な技能を身につける学生を育てる必要性がある。

総評：

企業側が「本学で身につけてもらいたい能力」は汎用力 (71%が回答) がダントツであり、教養教育 (23%)、専門力 (6%) であった。これとは別に、「求める (重視する) 能力」で積極性・主体性が94%、責任感が79%、協調性が69%、行動力が66%と上位となり、「重視する事柄」で人柄が89%にも達した。このような結果から判断すれば企業が求める人物像がある程度わかってくる。問9から問16までが汎用力に関する回答であり、この部分から8つの回答で3, 4の平均は73.8%。最も高いのが問13のマナー (88%)、最も低いのが問11のリーダーシップ性 (52%) だった。本学の「第3期中期計画に向けて」(案) の中にも「自ら考え、自ら立つ」人材育成や、「全学生の人的成長」が盛り込まれており、汎用力に関して評価が低い企業が少なくなかったことを踏まえて今後のカリキュラムの編成を考えるべきである。もちろん企業側の「求める能力」として低かったとしても、教養、専門力の強化は本学独自の人材育成の観点からは軽視はできない。これらの観点相互の関係の検討や、就職先と専門教育の関係性など将来的には、詳細な関係性の分析が必要かもしれない。

資料

「問 19. その他、自由意見を記載お願いします。」

※自由記述については、個人情報保護の観点から内容を一部削除又は変更しております。

- ・発酵食品学科の学生さんには酒類メーカーを目指して学んでいただくことを期待いたします。
- ・入職者の評価については、やや厳しい評価になっていますが、まだまだ経験が浅い段階での評価でもある為、「今後の期待を含めた、厳しい評価である事をご理解下さい」今後、少しずつ業務に慣れてくれる中で、もっと実力を発揮してくれることを期待していますし、それだけの力を持っている人だと思っています。Q18については、現在は、コロナ禍でもあるのでインターンシップ受け入れは難しいのですが、ある程度収まれば積極的に受け入れていきたいと考えています。その際、縁あって採用になった場合、状況によっては、インターンシップ時に受け入れた部署と違った配置となる場合がある事を、もちろん私共からも説明しますが、大学側からも学生さんにお知らせしていただきたいです。入職時に、その点で入職者（採用者）の方と認識の相違があったように感じられました。その後、丁寧なオリエンテーションや採用時の研修等を経て、約5か月が経過し、継続して働き続けていただいておりますが、ご本人の想いの中には、その「相違の点」について「くすぶったような想い」を持っておられるように感じます。ご本人は、福祉系の仕事をするに当たって、利用者さんへの対応の仕方など「とても良いセンスを持っておられる」と評価しています。が、それと「継続して働き続けていただけるのか」とは、別になってくると思います。とは言え、入職者後は私共企業側の責任となる為、「大学側にどこまで求めるのか…」という取り留めのない話しになっている事をお詫びします。しっかりと育てて継続して働き続けてもらえるように努めていきたいと思っております。大学側には、専門的な知識ももちろん大切ですが、働くに当たって「鋭い感性を持った学生さん」を育てる事にもご尽力いただければ…と期待しています。今後共、宜しくお願い致します。
- ・校内でおこなえる会社説明会の頻度、時間帯を多くして頂きたい。
- ・人柄や協調性などの個人の情報を採用前にもう少し聞いておきたい。
- ・大分の良い学生を育てて頂きありがとうございます。これからもよろしくお願い申し上げます。
- ・日頃より大変お世話になっております。〇〇社〇〇でございます。弊社では貴校 OB. OG が他社員の模範となるような活躍をしてくれております。引き続き説明会等に参加をさせて頂き、交流を深めさせて頂けますと幸いです。今後も何卒よろしくお願い申し上げます。

別府大学アセスメントポリシー

1. 目的

別府大学は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行ない、かつ、成績評価を含めた複数の方法で学生の学修到達状況を多角的・総合的に評価することによって、教育の質の向上及び教育の質の保証を行う。

2. 成績評価

別府大学は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づき、シラバスに明示した授業の到達目標及び評価方法並びに学科履修規程に明記された成績評価の区分によって、厳格で客観的・公正な成績評価を行う。

3. 成績評価を含めた多角的な学修到達状況の評価

別府大学は、2の成績評価に加え、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づき、各学科・課程等（学位又は教育プログラム策定単位）を基本に、その学修内容等に応じ、下記から選択した複数の方法で学生の学修到達状況や達成すべき質的水準を多角的・総合的・客観的に検証（測定）・評価する。このことによって、ディプロマポリシー（学修到達目標）を起点としたPDCAサイクルを回し、授業内容、授業方法、評価基準、カリキュラム、入学者選抜などについて改善を図るとともに、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの各ポリシーについて必要な見直しを行う。さらに、学修成果（到達目標）の達成度評価を集約し、別府大学全体の学修成果の達成状況を評価する。

① ポートフォリオ学修支援システムでの「学生による評価」

学生自身が、ポートフォリオ学修支援システムを利用して、学修成果（到達目標）の達成度を自己評価する。

② 口頭試問での「教員による評価」

卒業時に修得することが期待される学修成果（到達目標）を、卒業論文・卒業制作発表会または口頭試問によって評価する。

③ まとめ試験による「客観評価Ⅰ」

科目区分毎に「まとめ試験」による内部アセスメントテストを行い、修得することが期待される学修成果（到達目標）について達成度を確認する。

④ アセスメントテストによる「客観評価Ⅱ」

客観的な評価を行うために、外部テストなどを利用したアセスメントテストによって、学修成果（到達目標）の達成状況を評価する。

⑤ 卒業生調査による「卒後評価」

別府大学教育への評価、職業生活や社会生活での必要な知識と能力、別府大学への希望などについて、卒業生への調査を行うことで、学修成果（到達目標）の達成状況を評価する。

⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

在学生においては、実習先訪問や実習連絡会議等を通して、学外実習先の企業や施設などでの学生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。卒業生においては、就職先の

企業等での卒業生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。

令和元年度アセスメント・ポリシーに基づく達成度評価

⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

目的：別府大学アセスメント・ポリシーでは、評価指標⑥として「地元社会・産業界からの『外部評価』」を定めている。これに基づき、「令和元年度雇用主アンケート」の結果から DP 達成度を評価し、本学の教育・研究上の課題を明らかにする。

実施方法

1. 「令和元年度雇用主アンケート」の結果に基づき、別府大学のすべての学部・学科の学生が共通して身につけることとしている①教養 ②専門力 ③汎用力について、それぞれ 4 段階で到達度を評価する。
2. 4 段階の評価基準は、以下の表のとおりとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%以上
3	DP の達成度が 60%以上 80%未満
2	DP の達成度が 40%以上 60%未満
1	DP の達成度が 40%未満

3. DP の 3 つの力について、達成度についての総評を行う。

評価結果の集約：各学科・部署で実施するアセスメント・ポリシーに基づく調査等の結果は、IR 推進委員会が集約する。

評価結果の報告・公表：評価結果は学長への報告後、大学企画運営会議で報告し、別府大学ホームページ上に公開する。

企業等へのアンケート調査依頼文

令和3年8月16日

採用ご担当者各位

別府大学
学長 飯沼 賢司

アンケート調査ご協力のお願い

拝啓 時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素より、本学学生の就職活動及び採用につきまして格別のご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、別府大学では、企業・団体等の採用担当者の皆様を対象にアンケート調査を実施しております。本学学生の採用にあたって、貴組織に必要な人材となるための力について等のご意見をお伺いし、本学の今後の教育力の向上、改善に活かしたいと考えております。

つきましては、下記の方法にて実施いたしますので、ご多用中大変恐縮ですが、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 目的

各企業・団体の採用担当者の皆様に、本学学生の採用や仕事面における必要な人材についてご意見をお伺いし、今後の教育力の向上や改善に活かしたいと存じます。

2. 調査対象

本学卒業生の就職先

3. 回答期限

令和3年9月3日（金）

4. 実施方法、回収方法

URL または QR コードを用いて、インターネット上のアンケートページにアクセスして回答する。

※なお、回答は機械的に処理され、社名等が特定できるような形で利用されることはありません。

URL : <https://forms.gle/RsctuTpLvqeQUzCw5>



<問い合わせ>

〒874-8501 大分県別府市北石垣82

別府大学キャリア支援センター（高橋敏、高橋良三）

Tel:0977-66-9623

以上

別府大学 本学卒業生に関するアンケートご協力のお願い

別府大学では、このたび企業・団体等の採用担当者の皆様を対象にアンケート調査を行うことになりました。本学学生の採用や仕事面における必要な人材についてご意見をおうかがいし、本学の今後の教育力の向上、改善に活かしたいと考えております。ご協力の程よろしくお願いいたします。

尚、回答は統計的に処理され、社名等が特定できるような形で利用されることはありません。

内に該当の番号をご記入ください。

○貴社について (基本項目)

問1. 本社所在地

- 1. 大分県 2. 福岡県 3. 宮崎県 4. 熊本県 5. 佐賀県 6. 長崎県 7. 鹿児島県
- 8. 沖縄県 9. 中国・四国地区 10. 関西地区 11. 関東地区 12. 上記以外の地区

問2. 従業員 (職員) 規模

- 1. 20人以下 2. 21~50人 3. 51~100人 4. 101~300人
- 5. 301~1000人 6. 1001人以上

問3. 主たる業種

- 1. 農・林・水産 2. 建設 3. 製造 (食品・飲料) 4. 製造 (食品・飲料以外) 5. 情報・通信
- 6. 広告・メディア 7. 運輸・郵便 8. 卸・小売 9. 金融・保険等 10. 不動産・物品貸借
- 11. 宿泊 12. 飲食サービス 13. 教育・学習 14. 医療・福祉 15. 上記以外のサービス業
- 16. 公務 17. その他

問4. 本学からの採用実績

- 1. なし 2. あり (5年以内) 3. あり (5年超または時期不明)

○人材像について

問5. 貴社が求める (重視する) 能力はどのような能力ですか (複数回答可)

- 1. 課題発見・解決力 2. コミュニケーション力 3. 専門知識 4. 行動力 5. 責任感
- 6. 積極性・主体性 7. 協調性 8. 表現力 (プレゼンテーション力) 9. 外国語能力
- 10. その他 ()

問6. 採用において重視する事柄は何ですか (複数回答可)

- 1. 人柄 2. 働く意欲 3. 熱意 4. 社風への適合性 5. 専門能力 6. 協調性
- 7. 情報処理力 8. 筆記試験 9. インターンシップ経験 10. その他 ()

(本学からの採用実績がある企業様へ 問7~16について1~4で回答してください)

問7. 社会人として必要な常識・幅広い知識教養を身につけているか

不足している ←—————→ 身につけている

1 2 3 4

問8. 専門分野で身につけた基本的な知識・技能を活かすことができているか

不足している ←—————→ できている

1 2 3 4

問9. 論理的に考え分析する能力はあるか

不足している ←————→ ある
1 2 3 4

問10. 主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか

不足している ←————→ ある
1 2 3 4

問11. 組織での活動においてリーダーシップを発揮することができるか

不足している ←————→ できている
1 2 3 4

問12. 組織において、他社や他部門と協調・協力して仕事を進めることができるか

不足している ←————→ できている
1 2 3 4

問13. 場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか

不足している ←————→ 身につけている
1 2 3 4

問14. 自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか

不足している ←————→ 身につけている
1 2 3 4

問15. 社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができるか

不足している ←————→ できている
1 2 3 4

問16. 基本的な情報処理能力（パソコンスキル等）を身につけているか

不足している ←————→ 身につけている
1 2 3 4

○本学に求めるもの、期待するものについて

問17. 企業として本学で身に付けてもらいたい能力は何ですか

1. 人間形成に必要な教養
2. 仕事に必要な専門力
3. 社会で活用できる汎用性のある能力

(論理性・主体性・判断力・企画力・コミュニケーション力・リーダーシップ等)

問18. 今後、以下の事項について貴社が希望することはどんなことですか(複数回答可)

1. 本学の先生や就職担当者との情報交換
2. インターンシップ派遣の増加
3. 学校主体の合同説明会・単独説明会・セミナー等の開催

--	--

(上記以外に可能なことがあれば記載をお願いします)

--	--

問19. その他、自由意見を記載をお願いします。

--	--

・ご協力ありがとうございました。